

驚きのアイデアで暮らしをデザインする力

関戸の家

- ▲ダイニングやリビングには、それぞれ異なるデザインのソファや椅子。抜群のセンスです。
- ◀シンプルな白を基調に、塀や門扉は塗り替えるだけで、新築としっかりマッチング。

設計・監理 中道哲也 株式会社 スタジオパートナー

施工 株式会社富栄建設

撮影：アトリエワンデザインスタジオ 今西 浩文



玄関クロークの壁にライトを落としただけで実用的なアイテムがアートに早変わり。



一面の引き戸が付いたキッチン納戸。冷蔵庫や食器棚もデッドスペースを活用して収納。



階段下を使えばトイレもデフォルメされたお洒落なスペース。



1階部分のライトグレーが時間の変化とともに深みを増し、刻々と表情を変える外観。



LDKをワンフロアに、あえて変形させることで想像以上の良行きと広がり。



洗濯物は2階の浴室からシュターを使って1階へおろすアイデアデザインを採用

新築工事スケジュール

〈基本設計期間〉
H24年10月～H25年1月

〈実施設計期間〉
H25年1月～4月

〈見積もり依頼期間〉
H25年4月～5月

〈起工〉
H25年6月21日

〈上棟〉
H25年8月6日

〈完成・引渡し〉
H25年11月16日

住宅データ

家族構成／ご夫婦
構造／木造在来軸組工法
建築面積／59.62㎡(約18.03坪)
延床面積／1 F 51.76㎡(約15.66坪)
2 F 54.66㎡(約16.53坪)
計 106.41㎡(約32.19坪)
敷地面積／165.78㎡(約50.15坪)
屋根／ガルバリウム鋼板タテハゼ葺
外壁／ジョリパット仕上、防火サイディング貼

設計・監理



モットー 建て主・施工者・設計者 三位一体

中道哲也 Tetsu Yanakamichi

株式会社 スタジオパートナー

1963年生まれ。25歳のとき我流で建築事務所設立。その後共同でデザイン事務所設立、2003年現事務所に至る。一級建築士。

施工



株式会社富栄建設

建て主さんの声

昔から建築家さんと家を建てるのが夢だったので、面談して気に入った建築家さんを選ぶのは大変良いシステムだと思いました。中道さんとの打ち合わせは毎回楽しく、スイッチの位置や台の高さなどまで細かいところまでこだわられるのが建築家さんとの家づくりの良いところだと感じました。また、現場で職人さんとも話をしてどんな風に家が出来上がるのか分かり、皆様のお陰で建ったという思いもあり、家に対する愛情が人一倍あるように思います。毎日の生活がいきいきしてとても楽しいです。

家の間取りを眺めていると、住まう人の顔が見えてきます。そして空間をデザインすると、住まう人の笑顔や会話が聞こえてきます。それが、住まいをデザインするということ。紹介する関戸の家で、その暮らしを見ることが出来ます。

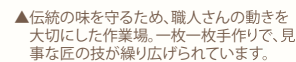
建て主さんは、海外在住経験もある若いご夫婦。お二人とも自然体のナチュラル系で、自分自身をよく知っていて、自分たちの好きな物を分かっている人たち。印象は「二人らしさ」を持っているご夫婦。その二人の住まいをデザインしたのが「デザイン力とチームワークを武器に活動の幅を広げる株式会社スタジオパートナー」の中道哲也さんです。現在、御坊事務所を拠点に和歌山事務所、田辺事務所と、地域に寄り添うその土地土地のコミュニティを大切に、事務所を展開。今回は和歌山事務所のメンバーが、中道さんとともに、建て主さんの暮らしをカタチにしました。

「ライフスタイルがしっかりといて二人とも家でのんびりとした生活を想像されていました。スタッフとともにお話を伺っていると、暮らしがイメージできるほど。そのこだわりをデザインに、細部にまで盛り込んでみました」と中道さん。もともとは、ご主人のご実家でもあった場所。塀や門扉はそのまま塗り替えただけにとどめ、住まいの部分で替え。玄関やお庭には、立派な木々が存在感を出していました。どっしりと丸みのある木の幹に、青々と茂る緑。長い時間がかかる空間の安定感、何ものにも代え難いものです。大切な思い出はそのままだに、これからの新しい家族の時間を刻む。お二人の住まいを完成させました。

1階は、キッチンとダイニングとリビング。大きくゆとりのあるワンルームが希望で、シンプルに暮らしにリラックスを追求。あえてフロアを変形させることで、実際以上の広がりや奥行き、さらに空間に個性を出しています。中道さんは「変形することで生まれた空間に、意味を持たすのがデザイン。お二人の要望をお伺いしながら、スタッフと丸ごと一つ提案させていただきました」と。リビング沿いに大きく切り込んだ窓の同くは、庭の緑に映えるウッドデッキ。窓を開け放せば、外へと伸びるリビングガーデン。さらに、キッチンを壁と並行に振ることで生まれた角のデッドスペースには、冷蔵庫や食器棚などを収納。あえて振ったことで、冷蔵庫などの大物も楽々。ほかにも、階段下のスペースを収納ではなくあえてトイレにすることで、デフォルメされた内装に、デメリットをメリットに変えるアイデアこそが、スタジオパートナーのデザイン力だと改めて痛感です。

建てようネット
【和歌山】で建てた
新築
第 74 号

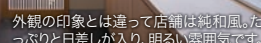
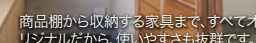
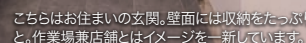
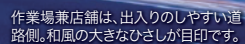
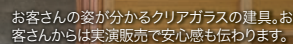
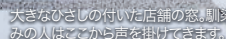
丁店舖併用住宅



◀和歌浦の入り口付近でちょっと目立つモダンな外観。その意外性が注目を集めます。



施 工 株式会社富栄建設



モットー 建て主・施工者・設計者 三位一体



うちはまず作業場がありきの建物だったので機械のお世話に、従業員たちが作業をしやすいかどうかというところからポイントでした。次に店舗としてお客さんに来てもらいやすいかどうかです。間取りやデザインを中道さんが工夫してくれ、富栄建設さんはあらゆる懸念施工してくれました。富栄建設さんは先日初期のメンテナンスにもすぐ駆けつけてくれました。中道さんとの打ち合わせでは、家づくりは初めてのことで戸惑うこともありますが、納得できる快適な建物になりました。ありがとうございます。

〈基本設計期間〉 H25年3月～5月	家族構成／ 建て主さん、お母さん、叔母さん
〈実施設計期間〉 H25年5月～7月	構造／ 木造在軸組工法
〈見積りも依頼期間〉 H25年7月～8月	建築面積／ 62.94㎡（約19.04坪）
〈起 工〉 H25年9月20日	延床面積／ 1 F 58.80㎡（約17.79坪） 2 F 57.97㎡（約17.54坪） 計 116.77㎡（約35.32坪）
〈上 棟〉 H25年11月4日	敷地面積／ 125.86㎡（約38.07坪）
〈完成・引渡し〉 H26年1月15日	屋根／ ガルバリウム鋼板タテハゼ葺
	外壁／ 防火サイディング貼

「建てつうネット」和歌山」の中でもデザイン力とチームワークに定評のある株式会社「スタジオオバートスリー」20代、30代と建て主さんに共感できる同世代のスタッフが、御坊事務所、和歌山事務所、田辺事務所に在中し、建築家の中道哲也さんを筆頭にしてアイデアを結集。一人ひとりが、地域の環境に精通し、建て主さんとのコミュニケーションを大切にしながら住まいづくりを全力でサポートします。

紹介する「1店舗併用住宅」も、建て主さんとスタジオオバートスリーの思いが集まった住まい兼、作業場兼、店舗。まずおっしゃられたのが「伝統の味を守る場所をつくりたい」ということでした。中道さん。今回の建て主さんは、和歌山市の銘菓として誰もが知る和歌浦のせんべい屋さん。昔ながらの製法で一枚一枚手作りし、家族で伝統の味を守り続けています。まずはその和歌浦せんべいの作業場がメイン。子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで、地元の人に愛される「おやつ」としての馴染みも大切にしていることから、入りやすく、声の掛けやすい店舗スペースも併設しています。

中道さん自身が家をデザインする職人でもあるため、同じ物づくりの職人同士、分かり合える部分がたくさんあったと言います。道具や生地も大切な要素ですが、伝統の味を守っているのは職人さんの動き。日々、同じ動きを繰り返すことで技が磨かれていくのです。そのため、今回はできる限り、従来の作業場に近い動きのできるレイアウトで、それだけでなくりのある広さを確保。作業場では、家族運営ならではの「あうんの呼吸」を生かしたスペースと配置で、住みやすい居住空間では、プライベートを守るデザインでそれぞれの生活を尊重することが少々難しい「イマドキ」のモダンなデザイン。しかし、せんべいは今まで通り、シンプルなお原材料にこだわり、サクとした口あたりで、優しさや懐かしさが口の中にあふれるいつもの味わい。その忘れられない味わいを求めて格子の扉を開けると、木を中心にした落ち着いた店舗スペースが広がります。こちらでも建て主さんが動きやすいように配されたオリジナルの棚や家具。さり気なく作業場の様子うかがえ、お客さんにとっては楽しい美演販売を見ているような気になります。

「本当に和歌浦を愛し、仕事を愛する建て主さん家族で、スタッフ全員がその思いに感銘を受けました。建て主さんという関係だけでなく、同じ地域を愛する職人仲間として、今後もお付き合いをさせていただきたいと思えます！」。